

財団法人日本エスペラント学会

2011年度事業計画

【前書き】

私たちは国際語であるエスペラントが社会に根付くことにより、国際間の言語の不平等がなく、言語差別による不当な差別がない社会になることを希求しています。そのために、エスペラントを普及発展させ、エスペラント文化を発展させ、エスペラントを利用することにより国際相互理解を促進します。

特に本年度は財団法人日本エスペラント学会を一般財団法人日本エスペラント協会として再出発させるために、業務のありかたを一部変更します。本計画では、項目を新法人の定款において目的とする事業や管理形態に沿って記します。業務を進めるための部の体制も見直しが必要ですが、本計画では従来の分担との整合性を考慮して、担当の部を付記します。

【重点事業】

【1】第98回日本エスペラント大会（理事会直下の日韓共同開催大会合同組織委員会が担当）

本大会を第43回韓国エスペラント大会との共同で、「日韓共同開催エスペラント大会」（韓国・城南、10月7～9日）として執り行う。本大会は本会内の日韓共同開催エスペラント大会組織委員会が主に担当する。これを、本会の「大会主催」、「国際交流」の事業の柱とする。また、本大会の準備、実行、まとめに際しては、「雑誌の刊行」、「研究教育」、「広報」などの諸事業面からも協力する。

【2】ハケ岳エスペラント館の保全（ハケ岳エスペラント館運営委員会が担当）

研修施設であるハケ岳エスペラント館（1994年開館）を今後長期間使用できるよう、本年度に大規模な保全工事を行う。大きな工事箇所としては、木部外壁の防腐剤塗布、鳥害予防のネット張り、床下消毒作業などを予定する。これにより研究教育事業に関わる施設を充実させる。

【事業に関わる計画】

【1】エスペラントを用いた国際交流事業

【1. 1】基本方針

1. 国際的なエスペラント事業を、特に世界エスペラント協会(Universala Esperanto-Asocio=UEA)の日本における国別代表組織としての役割を考慮して推進する。また、事業を同会のアジア運動委員会(Komisiono pri Azia Esperanto-Movado=KAEM)と協働して推進する。本事業にあたっては、日本のUEA委員、UEAデレギート、KAEM委員やKAEM協力者の力を結集する。
2. 日本のエスペランチストが行う国際的なエスペラント活動を支援する。
3. 外国のエスペランチストに日本の各種催事への参加を促す。

【1. 2】事業（国際部が担当）

1. 2011年度に行われる国際的なエスペラント大会への参加及び協力を呼びかける。また、下記★印の大会参加に対しては、参加旅行団を組織する。
 - (1) ★第96回世界エスペラント大会（デンマーク・コペンハーゲン、7月23～30日）：UEA委員の派遣を含む。
 - (2) ★第98回日本エスペラント大会（重点事業参照）：アジア活動分科会、UEA-delegitoj分科会、Pasporta Servo分科会を、韓国側と協働で実施する。
 - (3) 第67回国際青年エスペラント大会（ウクライナ・キエフ、7月14～21日）
 - (4) 第30回日韓中エスペラント青年セミナー（韓国）。
2. 日本のエスペランチストへの支援として、国際文通サービスを継続する。

3. 2012年に沖縄で開催の第68回国際青年大会のため活動する日本青年エスペラント連絡会 (Japana Esperanto-Junularo=JEJ)を支援する。エスペラント国際会議招へい基金を活用する。
4. 青年エスペランチスト国際行動基金の利用者を募集する。出版のための喜安基金の利用者を募集する。

【2】エスペラント普及事業

【2. 1】基本方針

1. 日本を代表するエスペラント組織として、エスペラント諸事業実施のために、国内エスペラント団体と連携する。
2. エスペラントの認知度を高めるために、行事等の機会をとらえた広報を展開する。またインターネットを通じて幅広い情報提供を行う。

【2. 2】エスペラント活動推進事業（組織部が担当）

1. 国内の諸団体のエスペラント活動を後援する。エスペラント懇談会等、普及活動の経験交流と連携の場を提供し、講習会実施および広報での団体間連携につなげる。また、全国一斉講習会の開催を呼びかける。またエスペラント界外の様々な団体・組織等に講座開催を呼びかけ、要請に応じて講師派遣を行う。
2. 「エスペラント運動年鑑」を作成し公表する。また、講習会情報を収集、活用する。
3. 優れた活動を行ったエスペランティストに対する「小坂賞」の選定、授賞を小坂賞委員会にて行う。

【2. 3】エスペラント広報事業（広報部が担当）

1. 全国各地のエスペラント講習会や展示会等の行事を掲載した広報誌を発行する。
2. ウェブサイトによる情報提供（講習会情報、新入荷図書、文通紹介など）を行う。
3. 「エスペラントの日」公開講演会を6月11日にエスペラント会館で実施する。
4. 展示会として、東京で実施のグローバルフェスタJAPAN2011へ出展する。
5. 広報チラシの改訂を検討する。

【3】エスペラント雑誌の刊行事業

【3. 1】基本方針

1. エスペラント学習・普及誌「La Revuo Orienta／エスペラント」を編集発行し、日本のエスペラント運動の発展に寄与する。編集に当たっては、次を考慮する。
 - (1) 全国、地方、県などの各段階でのエスペラント運動を相互に結ぶ機能を強化する。
 - (2) 運動、学習、教養の3つのバランスを重視し、エスペラント文と日本語文の分量の調和をはかり、読者各層の要望に応じられる雑誌作りを行う。
 - (3) 情勢に応じた誌面を作成し、エスペラント運動に貢献する。
 - (4) 日本エスペラント大会、世界エスペラント大会、世界青年エスペラント大会などの国内外のエスペラント行事の成功へ向け連携する。
 - (5) 新しい組織形態への移行へ向け、本会会員への周知をはかる。また、会員拡大のために他部門と提携する。

【3. 2】事業（編集部を原則とする。RO電子版は広報部が担当、紀要は研究教育部が担当する）

1. 「La Revuo Orienta／エスペラント」（RO）はA5版40ページを原則とし、毎月（8・9月は合併号）発行する。
2. 同誌の音声版、電子版（PDF版）を発行し、点字版の発行に協力する。
3. 同誌の編集体制を強化する。

- (1) 毎月編集会議を開く。年に1回、拡大編集会議を開き、読者の声を誌面に反映させる。
- (2) 編集委員の拡大を図り、委員は編集技術の向上を心がけることとする。

【4】 エスペラント図書の出版・頒布事業

【4. 1】 基本方針

1. 本会における出版物の現状を把握の上、エスペラントに関する図書出版活動を行う
2. エスペラント図書は一般市場にほとんど流通していない現状に鑑み、内外のエスペラント書籍を仕入れて販売する。また、内外のエスペラント雑誌購読を取り次ぐ。

【4. 2 エスペラント図書出版事業】（出版部が担当）

1. 日本エスペラント大会における記念出版物、Ponto双書、Fronte双書を継続して発行する。
2. 「辞書出版事業委員会（仮称）」を発足させ、エスペラント日本語辞典、日本語エスペラント辞典の改訂作業に取り組む。辞典の一部の電子化を進める。「エスペラント日本語辞典」の正誤表を公表する。
3. 次の図書の刊行を検討する。
 - (1) 「エスペラント便覧（仮称）」
 - (2) La Revuo Orienta誌上のklerigaj paĝoj等の記事の出版を検討する。
4. エスペラント関連著作物の管理に関して検討する。

【4. 3】 エスペラント図書頒布事業（出版部販売部門が担当）

1. エスペラント書籍の販売、取次ぎを行う。出張販売に応じる。
2. 図書カタログを隔年で発行する。

【5】 エスペラント研究教育事業

【5. 1】 基本方針

1. 教育部門においては、エスペラント学習者に語学力向上の支援、エスペラント指導者の育成、エスペラント入門のための教材提供、学校におけるエスペラント授業への支援、エスペラント界外でのエスペラント教育に関する事業への支援等に取り組む。
2. 研究部門においては、エスペラント語学の振興および関連諸分野との交流を含めたエスペラント語論の発展に取り組む。
3. 八ヶ岳エスペラント館を研修施設およびエスペラント図書館分館として活用する。施設保全については重点事業参照。

【5. 2】 研究教育本部事業（研究教育部が担当する。組織部が支援する）

1. エスペラント学習者の語学力向上を支援し、エスペラント指導者の育成を行う。
 - (1) 各種セミナー、「JEI講座」、「講師養成講座」、その他の講座・講習会・講演会等を行う。特に、第44回エスペラントセミナー（5月、札幌市）を実施する。また、セミナー運営の手引書を作成し、各地のグループ・団体との共催にあたって、円滑な運営を可能にする。
 - (3) エスペラント学力検定試験と新学力テストを実施する。特にエスペラントを正規科目として取り入れている学校での検定試験実施を進めていく。
2. 学校におけるエスペラント授業の支援にあたっては、特に次の活動を行う。
 - (1) 正規の授業としてエスペラントを教える場合には、「学校へ緑の風を」基金を活用して、冊子「国際語エスペラントへの招待」を提供する。
 - (2) 国際教育者エスペランチスト連盟（ILEI）日本支部（ILEI-JP）の活動を支援し、協力する。これにより、エスペラントの教育的価値について、教育界に知らせるために必要な資料、手段等の研究を行う。
 - (3) 日本の小・中・高校および大学等でのエスペラント教育について現状を把握し、調査を行う。

3. 教材開発として、「新教材企画委員会」で入門講習会に相当するレベルの教材セット（解説＋練習問題多数）を作成・試行する。
4. 図書館関連事業をボランティアの協力を得て推進させる。特にエスペラント会館5階を第2図書室として整備する。
5. 紀要「エスペラント研究」については、昨年度刊行後、隔年発行とする。
6. 日本大会において文芸コンクールを実施する。
7. 2009年度に行ったシンポジウムについては、次回は2012年の実施を予定する。

【5. 3】 八ヶ岳エスペラント館事業（研究教育部八ヶ岳運営委員会が担当）

1. 今年度の開館期間は4月9日（土）から11月10日（木）までとする。開館期間の週末と夏期は宿直当番を置き、利用者の便を図る。利用者数の増加を図る。
2. 館の運営を担当する運営委員と、日常管理の主体となるライセンス保持者の増加を図る。ライセンス保持者への再講習会を希望者に実施する。
3. 次のように研修行事を主催する。また他の主要エスペラント団体とは関係行事を共催し、他の団体には館を貸与する。
 - (1) 第13回Nur Esperanta kunvivado（エスペラントのみを使って行う合宿。8月）
 - (2) エスペラント関係展示と講演会（6月）
 - (3) エスペラント図書展示会（9月）
 - (4) 共催：関東エスペラント連盟合宿（4月）

【6】 エスペラント大会主催事業

【6. 1】 基本方針

1. 日本エスペラント大会を毎年継続開催する。第98回大会は重点事業を参照。

【6. 2】 事業（組織部が担当）

1. 大会を円滑に実施するための形態を整える。
2. 日本大会支援基金を活用し、アジアからの大会参加者の支援などを行う。
3. 北海道エスペラント連盟との共催で第99回日本エスペラント大会（2012年）を準備する。

【7】 その他前条の目的を達成するために必要な事業

【7. 1】 エスペラント会館活用事業（総務部が担当）

1. 東京都早稲田にあるエスペラント会館を、本会事務所としてのみでなく、テナント貸与、教室貸与として活用する。

【法人管理に関わる計画】（会計上の法人会計に相当する）

【基本方針】

1. 前書きに述べたように、本年は公益法人改革において、特例財団法人から一般財団法人への移行を行う。このために、財団移行検討委員会を中心に準備を進める。
2. 本会の基盤である会員の活動への支援、および会員からの支持の強化と会員層拡大を図る。

【業務の実施】（担当部ごとに記す）

1. 総務部

- (1) 総務部の職務（庶務、会員管理、役員支援、施設管理など）を、事務局および関連委員会（選挙管理委員会など）を通して実行する。
- (2) 新財団の規約類を策定し、財団法人移行申請手続きを行う。新財団における最初の評議員の選定を、文部科学省の了解を得た方式で行う。

2. 財務部

- (1) 中長期的な視野の下に、堅実な財務運営を図り、本会事業の執行を財務面から支える。

(2) 一般財団法人移行に伴う公益目的支出計画および中長期的な財務計画を策定する。

3. 組織部

(1) 会員の拡大・定着への働き掛けを継続する。会員拡大委員会で各部と協働する。

(2) 会員状況を把握し、活動基礎資料として関係者に提示する。

(3) 会員および会員による維持員会団体と定例諸会議などを通じ、情報交換共有、施策反映を行う。

(4) 新財団移行を契機として、団体会員制度を発足させ、また会員種別を再検討する。個人会員支援策を検討する。

4. 広報部

(1) ウェブサイトやメーリングリストを管理し、諸事業を実施する際の基盤とする。